

令和 5 年 7 月の解説（府県天気予報）

【7 月の天候状況】

上旬は、北日本では、低気圧や前線の影響を受けにくく、まとまった雨の降った日が少なかったため、降水量は北日本日本海側と北日本太平洋側で少なく、日照時間は北日本日本海側と北日本太平洋側で多くなりました。東日本では、梅雨前線の影響で曇りや雨の日もありましたが、太平洋側を中心に高気圧に覆われて晴れた日もあったため、日照時間は東日本太平洋側で多くなりました。西日本では、期間を通して梅雨前線の影響を受けやすく、線状降水帯が発生して記録的な大雨となった所もあり、10 日には福岡県と大分県に大雨特別警報が発表されるなど、各地で河川の氾濫や土砂災害が発生しました。降水量は西日本日本海側と西日本太平洋側で多くなりました。沖縄・奄美では、奄美地方で線状降水帯が発生するなど梅雨前線の影響を受けた期間がありましたが、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。平均気温は、北日本と東日本では暖かい空気が流れ込みやすかったため、北日本でかなり高く、東日本で高くなりました。沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、暖かい空気に覆われやすかったため、平均気温は高くなりました。

中旬は、北日本では、日本海側を中心に前線や気圧の谷の影響を受けやすかったため曇りや雨の日が多く、東北北部を中心に記録的な大雨となり、河川の氾濫や低地の浸水、土砂災害が発生した所がありました。このため、降水量は北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側で多くなりました。また、日照時間は北日本日本海側でかなり少なくなりました。東日本と西日本では、日本海側は梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、東日本では線状降水帯が発生して記録的な大雨となった所もあったため、降水量は東日本日本海側で多くなりました。一方、太平洋側は高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間は東・西日本太平洋側で多く、降水量は東・西日本太平洋側で少なくなりました。中国地方、近畿地方、東海地方では 20 日ごろに梅雨明けしたとみられます。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、湿った空気の影響でまとまった雨が降った所があったため、降水量は多くなりました。平均気温は、北日本を中心に暖かい空気が流れ込みやすく、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、暖かい空気に覆われやすかったため、北日本と東日本でかなり高く、西日本と沖縄・奄美で高くなりました。

下旬は、北日本では、期間の前半は高気圧に覆われやすく晴れた日が多かったため、日照時間は北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側で多くなりました。また、降水量は北日本太平洋側でかなり少なく、北日本日本海側で少なくなりました。東日本と西日本では、太平洋高気圧に覆われ晴れた日が多かったため、日照時間は東日本日本海側と東日本太平洋側でかなり多く、西日本日本海側と西日本太平洋側で多くなりました。日照時間平年比は東日本日本海側で 187%、東日本太平洋側で 175%で、それぞれ 1961 年の統計開始以降で 7 月下旬として 1 位の多照となりました。また、降水量は東日本日本海側と東日本太平洋側でかなり少なく、西日本日本海側と西日本太平洋側で少なくなりました。四国地方と北陸地方では 21 日ごろ、関東甲信地方と東北南部、東北北部では 22 日ごろ、九州南部では 23 日ごろ、九州北部地方では 25 日ごろ、梅雨明けしたとみられます。沖縄・奄美では、期間の前半は太平洋高気圧に覆われ晴れた日も多くなりましたが、期間の後半は台風第 5 号や台風第 6 号の影響で曇りや雨の日が多くなり、降水量は多く、日照時間は少なくなりました。平均気温は、太平洋高気圧が日本付

近に張り出し、暖かい空気に覆われたため、北日本と東日本でかなり高く、西日本と沖縄・奄美で高くなりました。平均気温平年差は、北日本では+3.9℃で、1946年の統計開始以降で7月下旬として1位の高温となりました。

【7月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より3ポイント高い83%で、明後日予報は例年値より5ポイント高い81%でした。地方別の適中率では、明日予報は、関東甲信、九州北部、九州南部以外の各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、九州南部地方以外の各地方で例年値を上回りました。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.5℃小さい1.3℃で、全ての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.1℃小さい1.0℃で、九州北部以外の各地方で例年値よりも小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9月の天気予報の利用にあたって】

9月は、強い勢力の台風が日本に接近・上陸しやすい月です。また、日本付近に前線が停滞していると台風がまだ遠くにある頃から大雨となることもあります。台風が日本付近に接近・上陸すると予想されている場合には、最新の台風情報や早期注意情報、警報・注意報、キキクル（危険度分布）など気象情報に十分留意して下さい。